

リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会

2014年9月24日

細野ひろみ

課題：

1. 食品安全に関するリスクコミュニケーションはどうあるべきか
2. 勉強会で何を議論すべきか

→リスクの状況に応じたコミュニケーション。緊急時と平時のリスクコミュニケーションを分けて考える。ただし、緊急時に行った対策やコミュニケーションは、回復期・平時に影響。

→中長期的な目標を明確にして、目標に向けた戦略・行動を考える。

- －目標とする食と農の将来像、どのように食をめぐるリスクに対応できる/する社会を目指すのか。
  - ・フードシステムの複雑化・高度化、多様なリスク、新規のリスク
  - ・各主体の役割と行動
  - ・信頼の構築、依存と信頼

→リスク対策の費用対効果、コミュニケーションの費用対効果を考える。どう評価するか。

1. について

各主体の行動の根拠に資すること。

2. について

- ・現状や課題の確認と共有
- ・将来像の設定
  
- ・主体間別のコミュニケーションのあり方。想定主体は？
- ・評価の方法

\*基礎教育との関係。リスコミのベースには、フードシステムの状況や科学技術など、食をめぐるリスクに関連した基礎知識の共有が必要

\*個人と社会、現在（短期）と将来（長期）を考える。

\*「忘れる」能力に期待するコミュニケーションは、蓄積しない。

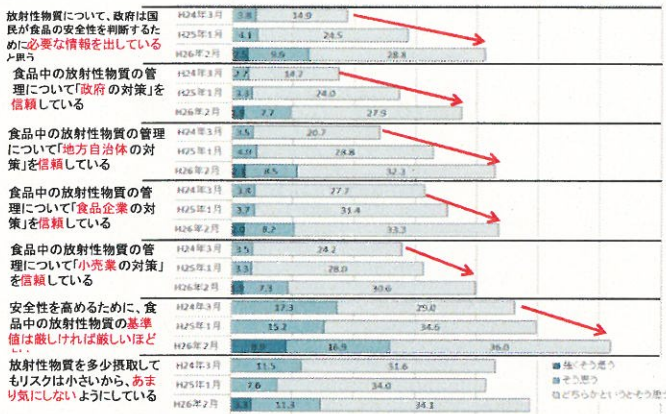
震災後に実施した消費者調査の結果（修正版）

調査対象：日経リサーチ、日本リサーチセンターのモニター（全国）

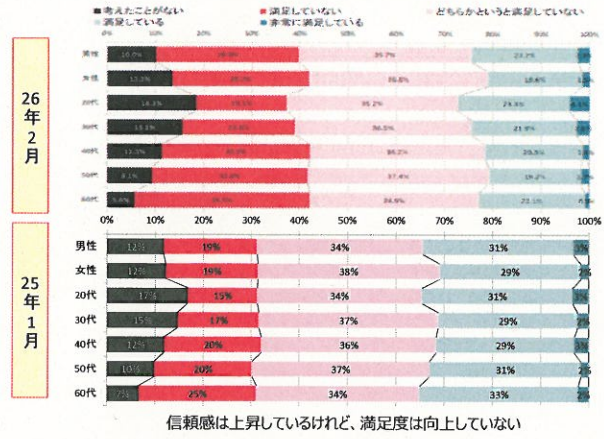
実施時期と人数：2011年10-11月（4,363）、2012年3月（5,028）、2013年1月（6,357）・3月（1,881）、2014年2月（9,678）・3月（2,065）

放射性物質とそのリスクはどのように認識されているか？（信頼）

(H24,25は4段階、H26は6段階評価)

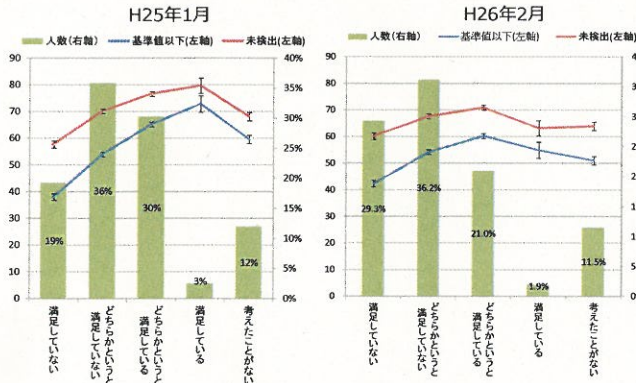


食品中の放射性物質管理に対する満足度



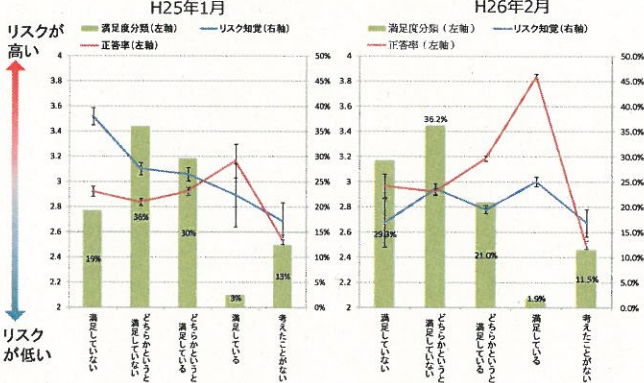
信頼感は上昇しているけれど、満足度は向上していない

満足度(放射性物質管理)と被災地の食品の評価



「満足していない」と回答した人は増加。満足度が高かった人の価格評価が低下。

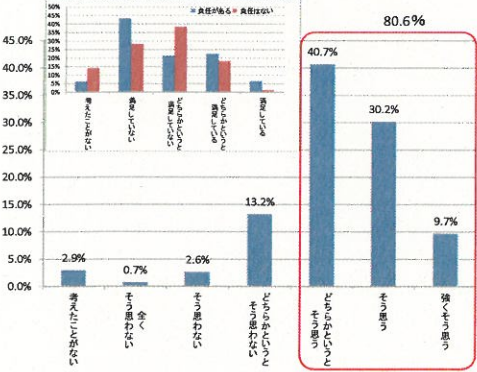
放射性物質管理に対する満足度と正答率・リスク知覚



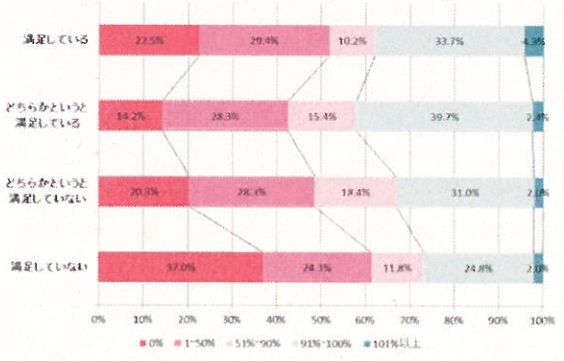
\* 満足度が高い人は、正答率が高い。リスク知覚と満足度の相関はH26年調査では不明確に。

食品のリスク低減と消費者の役割

消費者にも責任があると思うか？



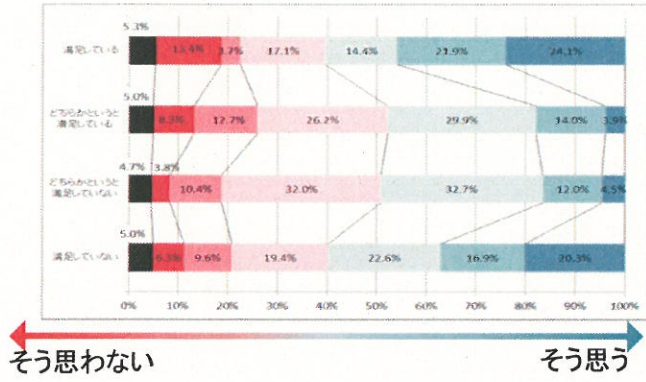
満足度と被災地の食品の価格評価



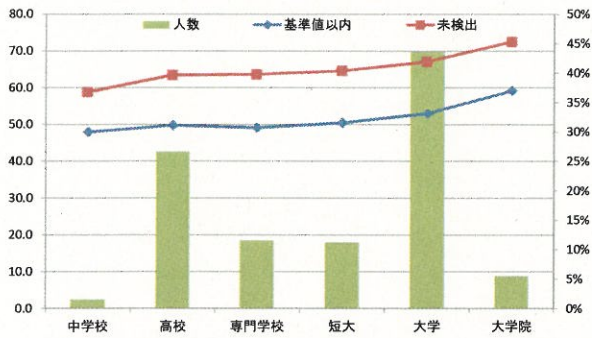
食品中の放射性物質管理に満足している人たちの22.5%が被災地産食品を「買わない」と回答

参考

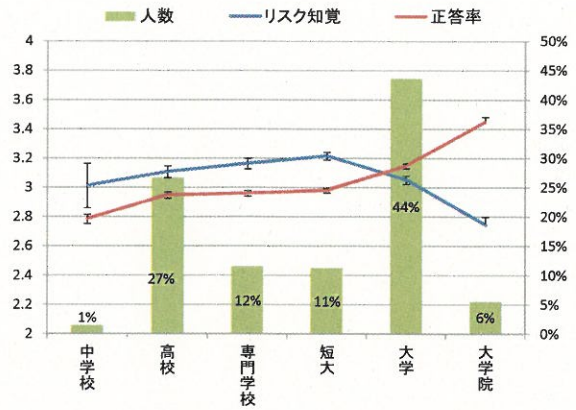
### 福島第1原発から遠い食品を選ぶ



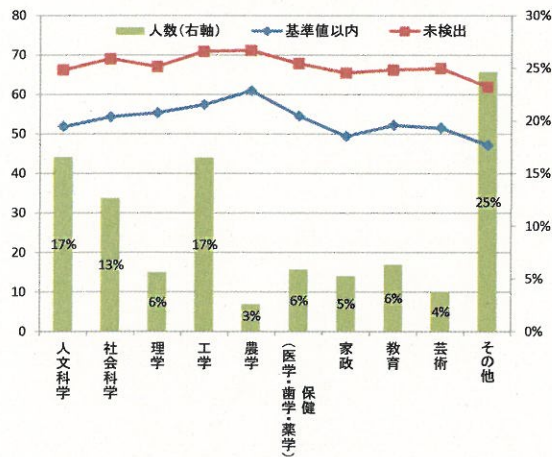
学歴と被災地食品の価格評価



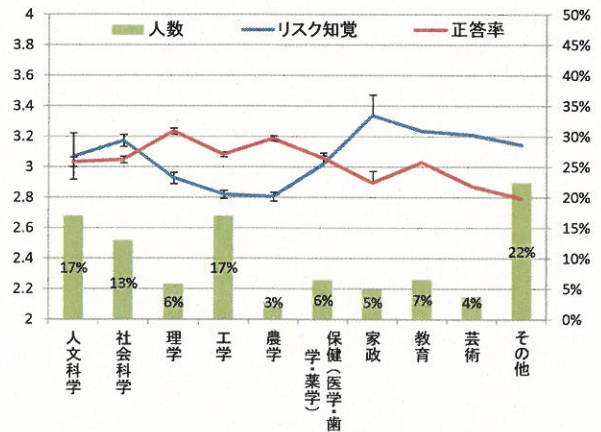
学歴とリスク知覚・正答率



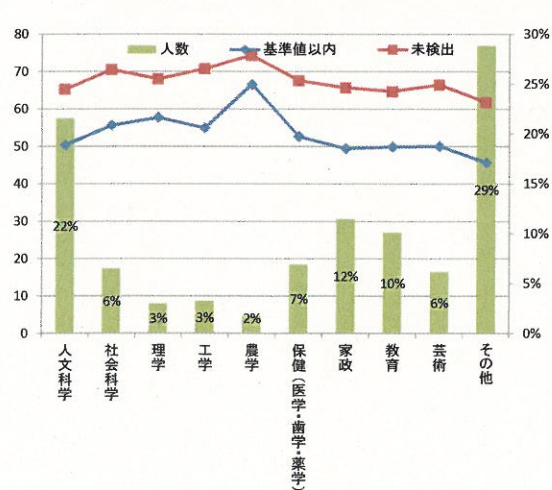
専攻と被災地食品の価格評価



専攻とリスク知覚・正答率



専攻と被災地食品の価格評価 (女性)



専攻とリスク知覚・正答率 (女性)

